

議長記者会見録

日 時 令和8年7月9日（木）15時00分～15時22分

場 所 議会棟 3階 議会運営委員会室

○議会事務局

これより議長記者会見を始めさせていただきます。

本日の進行は、まず、徳永議長からご発言がございます。

その後、幹事社からの質問、各社からの質問ということで、記者会見の時間は30分程度を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは徳永議長、ご発言をお願いいたします。

○徳永議長

本日は、報道各社の皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

このたび、多くの議員のご推挙をいただき、第71代長崎県議会議長に選出いただきました、徳永 達也でございます。皆様には、日頃から県議会の活動にご理解とご協力をいただき、また、今定例会の運営・広報に関しても様々なご協力を賜り、重ねて感謝申し上げます。

本県におきましては、人口減少対策をはじめ、長引く物価高騰への対応、離島・半島地域の振興、さらには九州新幹線西九州ルートを整備促進など、多くの課題が山積しております。

こうした状況の中、県当局と力を合わせ、諸課題の解決に全力で取り組み、長崎県を着実に前に進めるべく、誠心誠意、努力してまいりたいと考えております。今後とも皆様のご協力を賜りながら、二元代表制の一翼を担う県議会が一丸となって課題解決に向けて取り組むことが重要であると考えており、私といたしましても、これまでに培った経験を十分に活かしながら、議長として公正かつ円滑な議会運営に精一杯、努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日は、6月定例会を終えての所感のほか、議会の取組について、最初に述べさせていただきます。

はじめに「6月定例会を終えての所感について」です。

今定例会は、平田知事が就任されて初めての本格予算ということもあり、一般質問では「地域経済の基盤をつくる」「地域を残していく」「未来を担う人材を育てていく」という平田知事の3つの方針に係る施策のほか、九州新幹線西九州ルート整備促進、石木ダム建設、県北地域の振興、県立高校再編などについて、活発な論議が交わされました。

また、会期中には国の重点支援地方交付金等を活用した物価高騰対策に係る補正予算

が追加上程されました。これらの施策が着実かつ効果的に実施され、物価高騰の影響を受ける県民の皆様の負担軽減と生活の安定につながることを期待するものでございます。

このような物価高騰対策をはじめとし、本県の山積する諸課題の解決に対して、県民の皆様が県議会に抱かれる期待は大きなものがあり、引き続き、県議会としての役割や責務をしっかりと果たしてまいりたいと考えております。

続いて「議会の取組に関して」です。

まず「九州議長会について」です。

冒頭で述べました人口減少対策等については、本県単県での解決がなかなか厳しいものがあると考えております。このような課題を解決するための一つとして、本県と同様の課題を抱える九州各県との連携・協力が重要であると言えます。こうした中、この九州各県議会の議長・副議長等が一堂に会する九州各県議長会の会議を8月19日に本県で開催する予定です。前回は、令和4年5月の開催であり、本県開催は4年振りのものとなります。この会議が実りあるものとなるよう取り組んでまいります。

次に「佐賀県議会との連携について」です。

隣県の佐賀県議会とは1年ごとに交互に交流会を開催しており、今年度は本県での開催となります。両県は、新幹線以外にも多くの共通の課題を有しており、こうした課題へ一体的に取り組むためにも、今後ともこのような交流を継続していくことが重要であると考えており、現在、開催に向けた準備を進めております。

次に新たな取組としての「広島県議会との連携について」です。

昨年度、被爆・終戦から80年を契機に、広島県議会と両県議会の交流・連携に取り組むことを確認し、今年度から交流事業をスタートいたします。初年度となる今年度は8月に広島県議会から本県へ訪問いただき、関係施設の現地調査や意見交換、両県議会での懇談会等を実施する予定です。両県議会が継続的な交流を重ねることを通じ、地方議会として果たすべき役割を共有しながら、国内外への発信力を高めるべく、連携を図ってまいりたいと考えております。

最後に「高校生や大学生との交流について」です。

本県議会では若い世代に県議会の役割に関心を持ち政治を身近に感じてもらうため、高校生と大学生を対象にした主権者教育に取り組んでおります。私も過去には連携協定を締結している県立大学の学生の皆様、私の出身校である島原高校の生徒の皆様と、それぞれ意見交換させていただきました。投票率の向上や議員のなり手不足対策のためにも、これらの取組を着実に継続してまいりたいと考えております。

以上、私からの冒頭の発言とさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。

○議会事務局

ありがとうございました。

これより質問をお受けいたしますが、ご発言いただく際は、会社名をお願いいたします。それでは、幹事社からお願いいたします。

○読売新聞

前議長の辞任を受けて、今回改めて議長を務めることとなった所感、思いをお聞かせください。

○徳永議長

私は１年前まで２年間議長を務めましたが、残された任期についても、責任をもってしっかりと務めてまいりたいと思います。

○読売新聞

今回の６月定例会は、平田知事初めての本格的な予算となりましたが、議長から見た評価、どのような特徴を感じているかお伺いします。

○徳永議長

２月定例会は骨格予算ということもあり、今回の６月定例会は本格的な予算となったところでありますが、平田知事の思いがしっかりと出ていたのではないかと思います。

人口減少、地域経済、物価高騰対策、新幹線、石木ダムなどの本県の課題について、しっかりと自分の考えを述べられたのではないかと思いますし、公約や予算編成について、知事の考えがしっかりと出ている、そのように評価しています。

○読売新聞

西九州新幹線について、環境アセスメントの議論が固められようとしており、佐賀県知事と国土交通省の意見交換が行われていますが、進行状況について、議長としてどのように感じていらっしゃいますか。

○徳永議長

平田知事が就任して、山口知事にご挨拶に行き、意見交換が行われました。その中でお互いの意見をしっかりと確認しながら、アセスもしっかりやっていく必要があると思っています。山口知事もアセスについて、従来より前向きといいますか、前進的なものがありますので、両知事がしっかりと意見交換の回数を多くしていただくことで事業が前進するのではないかと期待があります。

私は新幹線議連の会長も務めているので、佐賀県議会の議連と意見交換しております。

我々議会としても事業実現のため、知事の支援をしっかりと行う責任がございますので、佐賀県議会の議連と意見交換をしながら、協力して進めていきたいと思っています。

○時事通信社

議長として、長崎県における一番の課題は何と考えており、議会としてどのように向き合っていくかお尋ねします。

○徳永議長

議会として知事と連携しながら課題に向き合っていく必要があると思います。人口減少対策、経済対策、そしてやはり九州新幹線西九州ルート、これらの課題等の解決について議会としての責任を果たす必要があると考えています。

○時事通信社

人口減少対策、経済対策、九州新幹線西九州ルートの3つということで、よろしいでしょうか。

○徳永議長

もちろん、それ以外もございます。

例えば離島振興についても、7月9日に有人国境離島法が改正され、期限が10年延長されました。予算の半分は本県で活用させていただいております。その結果、人口の社会減が緩和されたということもあり、本県にとっては大きな変化になると思います。

本県は、離島半島を有しており、西端の県でありますので、そういう意味では地理的に厳しく、そしてやはり、金銭的なものも厳しくなるものですから、しっかりと、知事と議会が一緒になって、協力していかななくてはならないと思っています。

○西日本新聞

8月19日に九州議長会が本県で実施されるとのことですが、どのような内容で実施されるのでしょうか。

○政務調査課長

事務局から説明いたします。九州議長会は年2回開催され、直近では5月に佐賀県で開催されております。20件を超える議案が各県から提出され、議論していただきます。

本県関係では、西九州新幹線の推進やインフラ対策、医師の偏在対策を含めた議案を提出しておりますが、他県からは例えば有明海の再生等の課題など、各種議案について意見交換する場となります。正副議長の皆様がしっかりと課題共有され、「九州はひとつ」という理念ものもとに開催される会議となります。

○徳永議長

そして、国への要望関係としてまとめますが、7月には総理大臣への全国都道府県議長会としての要望が年1回あります。私も2年前は、九州議長会の会長として、九州議長会でとりまとめた要望について、当時の岸田総理に提案させていただきました。

○毎日新聞

福岡県議会では、議長、副議長の選挙で、金銭の授受があったということが明らかになっていますが、長崎県議会でそのようなことはありますか。

○徳永議長

ありません。

○毎日新聞

断言されてよろしいでしょうか。

○徳永議長

はい、ありません。

私は20年議員をやっていますが、私のまわりでそのようなことを聞いたこともないし、私がそのようなことを聞いたこともありません。

○長崎新聞

今年度から広島県議会との交流について、今年は長崎県に広島県議会の皆様がお越しになって、来年は長崎県議会の皆様が広島県の方に行かれるということで、双方の交流を進められたときに、具体的にこういったアクション、こういった働きかけを国や世界に起こしていくのか、方向性のようなものがあればお聞かせください。

○徳永議長

私が前回議長のとくに、広島県議会の中本議長から、世界で原子爆弾を落とされた市は2つしかないのだと、最初は広島で、最後は長崎だと。今後、最後の被爆地をつくってはいけないと。そういう意味で、もっと広島と長崎の交流を進めるべきではないかとのお話があったほか、被爆、戦後から80年を経過したこと、被団協がノーベル平和賞を受賞したことを契機に、私もNPTに参加した際、世界にもっと発信していこうと、ただ一過性ではなく、何かを継続してやっていこうと、そのため相互交流を実施しようという提案が広島県議会からなされました。その後、外間前議長に引き継ぎまして、広島県議会との交流が正式に決定された次第でございます。

今後は、核兵器のない平和な国際社会を実現するため、被爆地の県議会として核兵器の悲惨さを一緒に伝えていく、核兵器廃絶のため国内外に発信していくということを継続的に実施していくという趣旨となっています。

○長崎新聞

何か具体的な要望活動等は実施するのでしょうか。

○次長兼総務課長

今回はまず初年度ということで、相互交流の初めての取組ということでございます。今後につきましては、まず相互交流をしていく、その中で広島県と調整をしながら、最終的にどういう方向に向かっていくか、協議をこれから深めていく形になるかと思えます。

○議会事務局

他にご質問はございませんか。

ご質問がないようですので、これで議長記者会見を終了させていただきます。

ありがとうございました。

※ 発言内容については、わかりやすいように一部変更している部分があります。